SARS再発に対する事前準備状況に関する調査

小原 博
国立国際医療センター 国際医療協力局

目的重症急性呼吸器症候群（SARS）の流行の際、患者が収容された多くの病院では院内感染が多発し、流行拡大に拍車をかけた。流行は2003年7月に一応終息したが、再流行の可能性を秘めている。SARSに対する事前準備の現状と問題点を分析し、病院における迅速かつ適切な対応に寄与することを目的に本調査を実施した。方法　SARS流行を経験した国(ベトナム41病院、中国95病院)と経験しなかった国(ネパール5病院)の病院を対象にSARSに関する意識、院内感染対策や対応能力の現状に関するアンケート調査を実施した。対象はSARS発生の際、患者受け入れが予想される病院である（国立病院、省病院等）。このうちSARS診療を実際に経験した病院はベトナムの1病院（バックマイ病院）のみであるが、ベトナムの2病院と中国の3病院では疑い例を診療している。結果ベトナム、中国では医療従事者のSARSに関する認識が高く、それぞれ66.7%と27%が高い～やや高い認識を有していた。一方ネパールでは100%がやや低い～低い認識であった。マニュアルの準備状況に関してはベトナム、中国ではそれぞれ66.7%と72.5%の施設で有していたが、ネパールでは25%が簡単なものを有しているにすぎなかった。院内感染防止委員会を有している率はベトナム85.4%、中国95.9%、ネパール75%であった。ベトナムでは95.1%の病院で外科用マスク、97.5%の病院で手袋の準備状況が良好と認められた。中国でも良好な成績が得られた。しかし、両国ともN95 マスクやゴーグルなどの防護具は不足していた。ベトナム、中国はそれぞれ75%、97.9%の病院で医療従事者に対しSARS院内感染対策の訓練を行っていたが、内容に関しては満足度が低く、質の高い訓練を目指して支援を求めている実態が示唆された。中国では県レベル以上の病院でICTが設置されつつあるが（71.9%が設置済）、組織ができたが稼動しているとは言い難い。ベトナムでは51.2%の病院が設置済であったが、ネパールでは皆無であった。ベトナムの各病院は、SARS制圧の実績を有するバックマイ病院による院内感染対策技術に関する指導を望んでいた。考察SARSを経験した国の病院ではSARSや院内感染対策に関する認識が高まっており、再発に備えて着々と準備を進めているが、院内感染対策に関する質の高いトレーニングや必須機材の整備を必要としている。ICTも急速に設置されつつあるが運営方法に課題を残している。一方、経験していない国では認識、準備状況とも劣悪であった。今後、主要病院に対し改善点の助言を行っていきたい。

Study on preparation for SARS resurgence at hospitals

HIROSHI OHARA
International Cooperation Bureau, International Medical Center of Japan, Tokyo, Japan